

令和元年 11 月 30 日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室



第2回教育実践特別公開講座 講師：学校指導課 大菅 佐妃子 副主任指導主事 「外国にルーツをもつ子どもたちの教育」 ～日本語指導が必要な子どもたちへの支援について～



今回は、学校指導課の大菅佐妃子先生にお越しいただきました。「外国にルーツをもつ子どもたち」と一言と言っても、全国の動向と同様、京都市でも近年非常に多様化しています。また、日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍する学校も年々増え、散在化する中、その支援が喫緊の課題となっています。講義の中で、実際に日本人として中国の小学校で授業を受けるという体験を通して、外国にルーツをもつ子どもたちの不安や疎外感等を、身に沁みて感じたのではないのでしょうか。日本語指導が必要な子どもたちにとって、日本語の習得以外に大切なことは「アイデンティティの確立」「学習参加ができる授業」であり、そのことで意欲的に学習を進め、自らの進路を実現することができるのだと教えてくださいました。

今回の話を切り口として、支援や配慮が必要な子どもたちへの一人一人に応じた支援が、最終的には全ての子どもたちの学力保障につながるのだということに気付くことができたのではないかと思います。



第3回京都市教育学講座 講師：中堅教員2名 「子どもを豊かに育む教育」



午後からは2名の中堅教員の方に実践発表をしていただきました。2名とも皆さんの先輩である卒塾生で、小学校籍の先生は現在5年生の担任、中学校籍の先生は2年生の担任をしておられます。小学校籍の先生は、子どもの主体性を育む3つのポイント等、中学校籍の先生は、生徒指導を意識して生徒に関わることの大切さ等、たくさんのことを伝えてくださいました。また、これから先生になる塾生に伝えたいこととして、「自分の強みを大切に」「様々な人との出会いや社会経験が必要」というメッセージをいただきました。

分散会では、「子ども主体の教育活動をどう作る？」というテーマで話し合いを行いました。前回の若手教員の時と同様、各分散会場を回ってくださった2名の先輩方に、積極的に質問する姿が見られました。

お二方とも、いろいろな困難に直面した際、それらを前向きに受け止め、チャンスだと思って子どもたちと向き合っておられることに気付いたことと思います。また、具体的に話してくださったので、現場の様子がイメージしやすかったのではないのでしょうか。ぜひとも学校実地研修で現場について学び、「今」の自分に何ができるのかを考えていって欲しいと思います。



仲間のレポートに学ぶ

第3回京都市教育学講座【講義】

「子どもを豊かに育む教育」を受講して

5組



6組



1 全体会

今日の講義から学んだことは、大きく分けて2つあります。1つ目は「先生自身が楽しいと子どもも楽しい」ということです。この言葉にはなるほどと思われました。私は今、京都市内の小学校で学生ボランティアをしているのですが、子どもたちと過ごしていく中で、騒がしい時に「疲れたな」「大変だな」と思う時がありました。しかし、そんな時に子どもたちはどんな気持ちなのかと改めて考えてみて反省しました。どんな時も私自身が生き生きと楽しんでかかわっていくことを意識しようと思いました。2つ目は、「共感的理解と自己一致の大切さ」です。私は、なりたい教師像として「どんな時でも子どもの視点に立って寄り添える先生」になりたいと思っていました。しかし、今日の講義を聞いて、それは決して綺麗事ではなく、しっかりと理解した上での本心でのかかわりすることが大切だと思いました。決して上辺ではない、真の「信頼」を生み出せるようにしたいです。

2 分散会

今日の分散会では、小学校教員志望が2人、高校教員志望1人、外国語教員志望1人というメンバーだったのですが、それぞれの視点で様々な意見が出ました。その中で特に印象に残ったのは「誰かではなく全員を」というキーワードです。1つの教室、学校の中に誰一人辛い思いをさせたりしてはいけないと思いました。常に全員を巻き込み、一人ひとりが学び、成長していけるようなクラス経営をしたいと思いました。

3 まとめ

今日の講座や分散会を踏まえて、さらに学びたいと思ったことは2つあります。1つ目は保護者対応についてです。実習やボランティアなどで子どもとかかわることはありますが、実際に保護者とかかわったことがないので、それについてもっと学びたいです。2つ目は言葉選びについてです。話す時、書く時、伝える時に、正しい言葉を使っているか、伝わっているか、普段から気を付けたいと改めて思いました。

教師が心から楽しむことができることってどんなことなのでしょうね。実践発表をしたお二人は、子どもたちへの努力や困難に面と向かうことそのものを楽しみと感じているようでした。保護者との対応は、実際に経験を積んでいかなければなかなか学ぶ事はできませんが、人権問題などについては学んでおいた方が良いでしょう。言葉の選び方については、今からでもできる学びです。常日頃から自分の言葉を振り返ってみましょう。

フィールドワークの様子

花背山の家
(11/23)



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
子どもを豊かに育む教育を実践しよう！

